としょかん

いわて

岩手県立図書館報

2021.3 No.188

としょかん いわて No.188 2021.3

発行：岩手県立図書館
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
いわて県民情報交流センター[アイーナ]内
TEL019-606-1730　FAX019-606-1731
http://www.library.pref.iwate.jp/

contents

目　次

ページ

01 **特 集**

防災訓練

・岩手県立図書館の自衛消防訓練

・視聴覚障がい者の避難誘導（岩手県立視聴覚障がい者情報センター）

10 **レファレンスコーナー**

・「かあさんの歌」（窪田聡作詞作曲）に《かあさんのあかぎれいたい 生みそをすりこむ》という歌詞があるが、そのような治療法を行う地域があるのか。

・戦時中、岩手県公会堂の西側（現在原敬の胸像がある場所）に隊列を組んだ軍馬像があった。終戦前に金属回収でなくなってしまったが、この軍馬像の作者を知りたい。

12 **児童コーナー わかば通信**

いつでも どこでも おはなし会

13 **岩手県内図書館紹介**

・久慈市立図書館

14 **図書館掲示板**

・第 61 回　岩手の読書週間
読書推進標語・手づくり絵本入賞者、読書推進運動功績者

特集：防災訓練

東日本大震災津波の発生から 10 年が経ちました。

３月 11 日、あの日は 10 年が経っても忘れられない出来事となっています。災害当時に思いを巡らせることは、今の災害への備えは足りているのかを振り返るきっかけにもなることと思います。

今回の特集は、「防災訓練」です。

当館で毎年行っている防災訓練と、岩手県立視聴覚障がい者情報センターによる災害時の視聴覚障がい者への対応についてご紹介します。

防災訓練は、一度経験すれば良いというものではなく、突然災害が起きたときに、とっさの動きが出来るよう何度も繰り返すことが大切です。また、より実践的な訓練になるよう改善したり、想定される様々な状況を訓練内容に組み込んでおくことは、職員が落ち着いて事態に対処するためにとても有効です。

岩手県立図書館の防災訓練

アイーナの防災訓練の概要

岩手県立図書館が入居する複合施設「いわて県民情報交流センター（以下、アイーナ）」は、年に３回の防災訓練を行っています。

訓練の目的は、各入居施設が実践的な訓練を実施し、災害時に迅速かつ円滑な自衛消防活動を行い来館者と職員の人命を安全に守ること、また防災意識の高揚を図ることです。

来館者のいない開館時間前、全館放送のもと各入居施設が一斉に訓練を開始。最終的に指定の避難場所に集まります（アイーナの館内放送は、アイーナの防災業務を担う「防災センター」という組織が行います）。

なお訓練の詳細な計画は、各入居施設で計画を立てています。

訓練の事前準備

当館では事前準備として、危機管理の担当者が参加職員の配置と訓練の動きを組んだシナリオのようなものを作ります。これをもとに、各職員にどういった役割を担うのかを伝えておき、当日を迎えます。

訓練の概要

岩手県立図書館ではどのような訓練を行っているのか、先日行われた訓練からご紹介します。

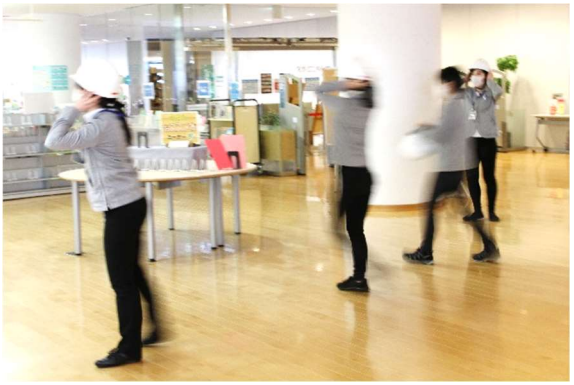
実施日時：令和３年２月26日（金）
AM8:00～8:20
参加職員数：41名（内訳：職員役24名、
利用者役15名、記録係２名）
他施設からの参加者：14名（全員利用者役）

―――アイーナ全体の災害の流れ―――
8:01　震度６強の内陸直下型地震が発生
地震と同時に停電発生
各エレベーターが直近階で停止
負傷者発生
図書館内エレベーターで閉じ込め発生
停電が自家発電により復旧
8:07　余震発生
8:09　アイーナ閉館
8:12　避難開始

訓練の動き

当館は、１～４階まであり、全ての階の訓練を解説すると非常に複雑になることから、この特集では、３階フロアの一般図書コーナーと児童コーナーを担当するサービス第１課の動きを中心に記述します。

8:01:00 地震発生
館内停電発生
図書館内エレベーター停止
【館内放送】
「地震です。地震です。身の安全を確保して下さい。周囲の安全を確認し、その場に待機していて下さい」
【職員の動き】
・全職員ヘルメットを着用し、メガホンを使うなどして利用者に声掛けをしつつ、自身の身の安全を確保します。
「本棚から離れて下さい」「慌てずに身の安全を確保して下さい」「机の下にもぐるなどして、頭を守って下さい」等



8:01:30 地震収束

【館内放送】

「揺れが収まりました。落下物に注意して下さい。この建物は安全です。落ち着いて行動して下さい。只今停電が発生しています。落ち着いて行動して下さい」

【職員の動き】

・被害状況、利用者の状況、負傷者等の有無を確認するため、フロアの状況を見ながら利用者に声掛けを行います。

「お怪我や体調を悪くされた方はいませんか」「この建物は安全です。落ち着いて待機して下さい」等

・避難口確保のため、自動ドアを開放。

・図書館内のエレベーターの閉じ込めを発見。状況集約者（確認した情報を取りまとめる職員）に報告します。

・体調不良者を発見。発見した職員は、体調不良者を安全な場所に移し、周辺の職員に応援を要請して、状況集約者に報告してもらいます。そして、体調不良者に寄り添って待機します。

・状況集約者は、地区隊長（アイーナの各階ごとの取りまとめを行う責任者。当館では災害発生時点での上席）に適宜報告します。

8:02:00【館内放送】

「各地区隊は被害状況及び怪我人の有無を確認し、各階の地区隊長に報告して下さい」

8:02:30【館内放送】

「地震情報です。震源地は岩手県内陸直下型、震度６強、津波の心配はありません。自家発電により停電は回復しています。ただ今館内調査を行っています。確認まで現場の指示に従って行動して下さい」

【職員の動き】

・フロアを巡回しながら、パニック防止を呼びかけます。

「この建物は安全です。落ち着いて待機して下さい」「余震に備えて、本棚には近づかないで下さい」「現在、アイーナ館内の被害状況を確認中です。次の指示があるまで落ち着いて待機して下さい」等。

8:03:30【館内放送】

「停電は回復しています。エレベーター、エスカレーターは使えません。安全確認中です。指示があるまで現場の指示に従い待機して下さい。１階防災センターに自衛消防本部を設置しました」

【職員の動き】

・アイーナの自衛消防本部の職員がエレベーターの閉じ込めの救出を始めます。

8:04:00【館内放送】

「各階の地区隊長は、被害状況を本部に報告して下さい」

8:05:00【館内放送】

「本部応急救護班は、３階総合案内前に救護所を設置して下さい」

8:06:00【館内放送】

「ただ今館内外の被害調査を行っています」

8:07:00 余震発生

【館内放送】

「余震です。余震です。落下物に注意して身の安全を確保して下さい」

【職員の動き】

・利用者に声掛けをしつつ、自身の身の安全を確保します。

「慌てずに身の安全を確保して下さい」

「机の下にもぐるなどして、頭を守って下さい」「揺れが収まるまで落ち着いて待機して下さい」等

8:07:15 余震収束

【職員の動き】

・利用者への声掛けを続けます。

「この建物は安全です。落ち着いて待機して下さい」「余震に備えて、本棚には近づかないで下さい」「現在、アイーナ館内の被害状況を確認中です。次の指示があるまで落ち着いて待機して下さい」等

8:07:30【館内放送】

「３階総合案内前に救護所を設置しました。負傷者を搬送して下さい」

【職員の動き】

・状況集約者は、負傷者の元へ車椅子を届けるよう指示します。そして、地区隊長に搬送開始を報告します。

・負傷者を車椅子に乗せ、救護所へ搬送します。

・救護所の職員に負傷者の情報を伝え、対応を引き継ぎます。

・搬送が完了したら、状況集約者に報告します。

・状況集約者は地区隊長に報告します。

8:08:30【館内放送】

「外壁及び外壁ガラスに多数のひび割れを確認。安全委員会（アイーナの損害を把握し、その後の対応を決める組織）を開催し対応を検討しています。今しばらくお待ち下さい」

8:09:00【館内放送】

「安全委員会で検討結果が出ました。被害が多く、本日はアイーナの継続運用は困難な状況です。この後閉館とさせていただきます。忘れ物が無いように荷物等を持ち、避難誘導員の指示に従って、３階アイーナ総合案内前に避難していただきます。まもなく避難開始します」

【職員の動き】

利用者に避難準備の声掛けを行います。

「間もなく避難を開始します。荷物をまとめて待機して下さい」「職員が誘導します。落ち着いて行動して下さい」等

8:12:00 避難開始

【館内放送】

「避難を開始して下さい。避難場所は３階総合案内前です。誘導員の指示に従い、落ち着いて避難して下さい。避難階段は全て使用出来ます。エレベーター、エスカレーターは使用できません」

【職員の動き】

・状況集約者は、各々の職員に以下を指示します。

「利用者を避難場所まで誘導して下さい」

「バックヤードと開架を最終検索して下さい。確認結果を私に報告したら自身も避難して下さい」

「出入口前で避難者を誘導して下さい」

8:18:00 避難完了

【職員の動き】

・状況集約者は、避難状況を地区隊長に報告します。

8:20:00 訓練終了

訓練終了後

後日、危機管理の担当者が参加職員へアンケートを行い、所感をまとめます。

今回の主な所感には、避難開始までどう利用者を落ち着かせるか、職員自身の安全をどう確保するか、といったことが挙げられました。

疑問や意見には、確認の上職員へフィードバックし、今後の防災訓練の参考にします。

（岩手県立図書館　鍋倉 健一）

＜岩手県立視聴覚障がい者情報センター＞

＜インタビュー＞
視聴覚障がい者の避難誘導

図書館には、目や耳の不自由な方々も来館されます。そうした方々が来館している中で災害が起こった際、どのような対応が必要となるのでしょうか。岩手県立視聴覚障がい者情報センターの職員さんに伺いました。

岩手県立視聴覚障がい者情報センターの概要

岩手県立視聴覚障がい者情報センターは、平成18年4月、「いわて県民情報交流センター（アイーナ）」内の4階（一部2階）に開設されました。

点字図書館と聴覚障がい者情報提供施設の二つの機能を併せ持っており、視聴覚障がいを持つ方々への情報提供の充実とコミュニケーション支援等の充実、福祉の向上と社会参加の促進に資することを目的としている施設です。

視覚障がい者の場合

――視覚障がい者は、どのような障害をお持ちなのでしょうか？

見えない、見えにくい、という障害を持っています。見えにくいというのは、「視力が晴眼者より低い」「視野が欠損している」「まぶしいと見えにくい」等の症状があります。

――災害に遭遇した際には、どのようなことに困るのでしょうか？

何かが起きていることは聞こえるので分かるのですが、例えば火事が起きていたとして、それがどこで発生しているのか目視できません。このため、どこに逃げたら良いのか、自分は危険の近くにいるのか、それとも離れているので待機していればいいのか、そういった「状況が分からない」ということが困ることのようです。

一般的に「状況の情報」というのは、8割を「見る」ことで得ていると言われています。その8割の情報が「見えない」ことで得られない。自分がどうしたらいいのかを判断するための情報が2割しか得られない、ということが、一番困ることではないでしょうか。

――何かあったときに「状況を教えてください」とは言い出しづらいものなのでしょうか？

困ったときに自分から「助けて」と言える人はごくわずかではないでしょうか。言えたとしても、非常時にどれだけ周りの方がそれに気づいて手を貸してくれるかは、非常時の度合いによっても違うでしょうし、東日本大震災のような規模の非常時には、他人よりも自分のことで精いっぱいになってしまうこともあるでしょう。災害弱者と言われるのは、そういったところにもあるのではないでしょうか。

――車椅子に乗っていると、助けが必要なことが周りから見て気付けるけども、見えない人、特に聞こえない人は周りから見て、なかなか気付けないでしょうね。東日本大震災で実際に困ったことはあったのでしょうか？

視覚障がい者の場合は、避難所に行くこと自体のハードルが高いので、避難所に行かなかった人が結構多かったと聞きました。スペースが細かく仕切られていたり、ごちゃごちゃした塊がいくつかあって、そこを一人で歩くのは困難なのです。「物資が届いたから取りに来てください」と言われても、それらの間をぬって取り

に行くのは無理だし、人の手を借りないといけないので、家に戻った人も多かったようです。

逃げるときは周りに人がいて助けてくれましたが、避難所には長くいられなかったようです。

――災害時に視覚障がい者に対応するとき、どういった配慮や注意が必要になるのでしょうか？

全体に対して言っているのか、自分に対して言っているのかが分からないので、あなたに話してますよということが分かるように、近くに行って声を掛けることが必要です。

また、全体に向かって「こちらに来てください」と言っていても、こちらがどこなのか分からないので、ある程度、個別に対応をする必要があると思います。個別に声を掛けてもらえると、自分に気付いてもらえているという安心感も生まれると思います。

それから、集まる場所まで誘導したり、壁や柱など何か触れるものの近くで待たせてもらえると、安心できると聞きました。自分が空間のどこにいるかがすごく気になるのだそうです。何もない何も触れない状態で一人で立っているのはすごく不安になるようです。避難する人の肩でも良いと思います。

声の掛け方としては、漠然とした説明だと、余計に不安になるんだと思います。「今しばらくお待ちください」の「しばらく」は、見える人は、周りの状況を見てどの位か認識しています。また「ちょっと待っててね」の「ちょっと」は、５分？10 分？というように、漠然とした説明は、不安材料になると思います。はっきりとは言えないにしても、「どこそこに行ってくるからそれまで待っててね」と言うと、何分くらいで来るなとか認識できます。自分が置かれている状況を出来るだけ詳しく本人が認知できる情報を与えられたらいいかなと思います。

――防災訓練の計画を立てるときなどに避難誘導を想定してどのような点に工夫されていますか？

避難誘導旗に鈴を付けています。「旗を持っている人についてきてください」と言われても、旗を持っている人が誰でどこにいるのかを認識できません。訓練の時は職員に余裕がある体制で行っているので、障がい者役の人に必ず職員が一人ついているのですが、実際の場面でそれが出来るとも限りません。

【鈴を付けた避難誘導旗】

それから、訓練の時から声掛けを多くするよう意識して行っています。

また、階段でも平地でも、歩くのが健常者より遅くなりますので、出来るだけ本人のペースで、急がせないようにということは訓練の時から心がけています。

あと、見える職員たちも、見えない方たちがどのように感じているのかを身をもって体験して感じるために、疑似体験を含めた防災訓練を行っています。視覚障がい者役の職員がアイマスクや弱視用の眼鏡を付けたりします。やはり自分が経験すると、こういったところが怖かったねとか良かったねなどと共有出来て、それを次に自分が逆の立場になったときに活かせます。いざというときのために活かすには、やはり、そうやって繰り返していくことが大事なんだと思います。

聴覚障がい者の場合

（話し手は、聴覚障がいをお持ちの職員の方です）

――災害に遭遇した際には、どのようなことに困るのでしょうか？

聴覚障がいは、見た目では気付いていただけません。車椅子や白杖を使っている方だとすぐ気付けると思いますが、聴覚障がい者の場合、見た目は聞こえる人と変わりませんので、図書館の利用者の中に聴覚障がい者がいたとしても、気付きにくいと思います。そうなると、職員からの指示や放送等が私たちに分かる形で伝達されないことになり、そのような時に困ります。

他の人達と反応が違う人がいたら、もしかしたら耳が聞こえないのかも、とまずはその可能性を考えてみていただけたらと思います。

――大きな地震などがあったとき、耳の聞こえない方は、自分で助けを求めたりするものでしょうか。

なかなか言いづらいですね。

まず、助けてほしいと音声で言えない人もいます。声を出せない人は予め「今何が起こっていますか？私は耳が聞こえません。教えてください」というメモを持ち歩いていて、それを示すということはあります。しかしそれを示せたとしても、その後のコミュニケーションがまた大変で、まず相手の説明が分からない。話している口を見ても、相手も慌てているので早口になってしまいます。一刻を争う状況下で「ゆっくり話してください」とか「書いてください」とは言いづらく、結局助けを求めずに我慢してしまいます。実は、他者と意思疎通が出来ないことによる心理的ストレスは大きく、聴覚障がい者はいつも我慢している状況にあることが多いのです。

そのような中で、手話であったり、もしくは「今確認中です。しばらくお待ちください」「避難します」「黄色い旗の誘導について行ってください」など書いてあるものを掲示するといった配慮、見て分かる方法があるとすごく安心出来ます。

聴覚障がい者がいるかもしれないと思って準備しておいていただけると本当にありがたいです。

――図書館には、高齢で耳の不自由な方もいらっしゃいますので、聞こえない人がいるという前提での避難の準備は確かに必要だと感じます。

周りの様子を「見て」判断することはできるのですが、図書館という場所は、みなさん読書に集中していると思います。周囲が避難して、聴覚障がい者だけがそれに気付かず取り残されてしまうこともあるかもしれません。ですので、残っている人がいないか確認していただければいいと思います。

逆に、聴覚障がい者は、聞こえないだけで、身体は普通に動けるので、例えば高齢者や車椅子の方の避難誘導時のお手伝いは出来るかと思います。そのためにも、まずは私たちにも状況が分かるようにしていただければと思います。

――東日本大震災で実際に困ったことはあったのでしょうか？

聴覚障がい者は、避難所に行っても周りの状況が伝わってきません。避難所などでは情報は音声で伝えられることが多いと思います。例えば、「こういう物資がどこそこに届きます」「何時に昼食が配られます」など、そういったことは口頭による指示や伝達なので、聞こえない人には、そのような情報があるということも分かりません。若干聞こえる人は何かしらキャッチするんでしょう

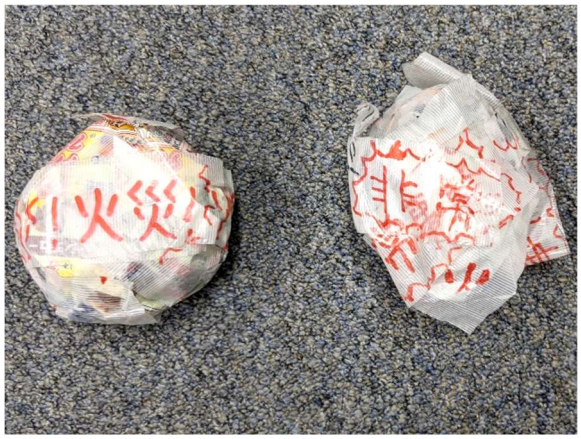
けれど、もし分かったとしてその場所に行っても、うまく自分の思いを相手に伝えられず大変だったという話を聞きました。

――災害が起きたときに、天井のフラッシュライト（光警報装置）で報せる施設もありますが、光っているのに気づくものでしょうか？

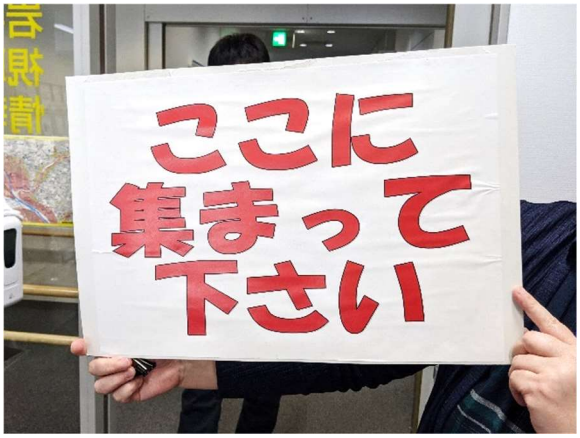
暗い中ならば分かりますが、明るい中だと気付かないこともあります。ライトが視界にあれば気付くと思いますが、図書館で読書に集中していると気付かないかもしれません。

また、トイレで個室に入っている時も気付かないですね。ですので私たち職員は、トイレの中に聞こえない人がいないか、ドアの隙間からメモを出したり、上から物を投げ入れたりという方法を行っています。聴覚障がい者がトイレから出たら、他の人はすでに避難していて誰も残っていないという状況になるかもしれません。

こうした事態に備えて、状況を書いたプレートや紙類を丸めた球などを用意してあります。



【紙をテープで巻いた球】



【フレーズを書いたプレート】

――防災訓練では、聴覚障がい者に避難誘導するときを想定して、どのような点に工夫をして計画を立てているのでしょうか？

災害が起きたときに話す内容は、大抵決まっているかと思います。その都度書くのではなく、前もって書いたものを用意しています。例えば「火事です」とか「ここに集まってください」「職員の指示があるまでその場に待機してください」などです。災害が起きたらそれを掲げて見せることにしています。

また、手話が出来る職員がそのときいればよいのですが、いつもいるとは限りません。聴覚障がい者の中には、手話が分からない人もいます。そういう場合も文字情報が必要になってきます。

そこで、手話に限らず紙に書いたものを用意するなど見て分かる誘導方法も準備し万が一に備えています。

聞き手：安保和徳・鍋倉健一［岩手県立図書館］

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。

Q．「かあさんの歌」（窪田聡〃作詞・作曲）に《かあさんのあかぎれいたい 生みそをすりこむ》という歌詞があるが、そのような治療法を行う地域があるのか。

〔回　答〕

まず、あかぎれの治療に味噌を使用する例がないかどうか調べてみたところ、民間療法を扱った資料の中にあかぎれに味噌を用るという記述がありました（『民間療法と民間薬』p.306)。その中にはあかぎれより細かいひびへ、味噌を用る民間療法が長野で行われていたことが確認できました(『健康の知恵』p.825)。

味噌を民間療法で実際に用る例があるとわかったので、次に長野という地域が歌詞と関連があるかどうかを調べてみました。「かあさんの歌」の作者窪田聡について調査したところ、「岡山県の生まれですが、疎開先の信州の暮らしを題材に、自分の母親への感謝と愛情を、この歌に込めた」ということがわかりました。その情報をもとに岡山県や長野県の食生活資料を調査しましたが、詳しい内容を確認することはできませんでした。

味噌と民間療法について調べているなかで、あかぎれだけではなく切り傷、火傷、しもやけ等にも味噌が用られていたという事実がわかりました(『日本の民間医療』p.138、『健康の知恵』p.719、p.816、『民間療法』p.150)。味噌の発祥の地は中国であり奈良時代に伝わってきたとされます。庶民にも普及したのは戦国時代以降のことで、その際、武士の切り傷やすり傷に味噌をぬって化膿を防ぐという方法が庶民にも伝わっていったのではないか、ということだそうです。ほかにもドクダミの葉に味噌をぬって行う、より効果的な方法も伝わっているそうです(『わが家でできる自然の特効薬229』p.37～38)。

歌の歌詞から、食べ物の意外な歴史がわかった事例でした。

（現在では、推奨されていない処置です。お気を付けください！）

キーワード：　あかぎれ　ひび　味噌　治療　手当て　民間療法

【調査プロセス】

1. 民間療法や味噌に関する資料を中心に調査。
2. 「かあさんの歌」の作者窪田聡について調査。
3. 岡山県や長野県の食生活資料も調査。

【参考資料】　※（　）内は当館請求記号

1　『民間療法と民間薬』 野村 瑞城〃著 人文書院 1927年（492.79/ノ1/1）
2　『健康の知恵』 吉田 仁志〃編 今野印刷 宝文堂 2003年（K492.79/ヨシ）
3　『日本の民間医療』 今村 充夫〃著 弘文堂 1983年（492.79/イ2/1）
4　『民間療法』 農文協〃編 農山漁村文化協会 2003年（492.79/ミン）
5　『わが家でできる自然の特効薬229』 田中 盛久〃監修 青春出版社 2002年（499.7/ワガ）
6　『心の歌・愛唱歌昭和百名歌』主婦の友社〃編 主婦の友社 2005年（767.7/ココ）

Q. 戦時中、岩手県公会堂の西側（現在原敬の胸像がある場所）に隊列を組んだ軍馬像があった。終戦前に金属回収でなくなってしまったが、この軍馬像の作者を知りたい。

〔回　答〕

質問者は当初、岩手県公会堂へ直接上記を問い合わせましたが、明確な回答を得ることができなかったということで、当館へレファレンスを依頼されました。

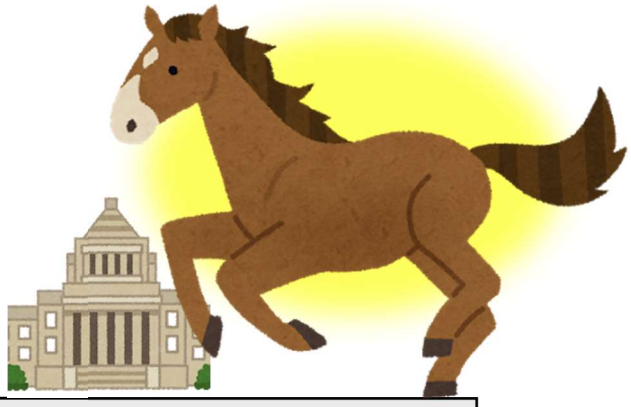
手はじめに岩手県公会堂が発行した記念誌を確認したところ、『岩手県公会堂竣工 88 周年記念誌』に軍馬像（正式名称は「支那事変軍馬出征記念像」）は「伊藤国男(圀男)」によるとの記述がありました。ただし、この資料の伊藤に関する情報は、馬像制作者としての氏名掲載のみにとどまり出身地等の記載はありません。もう少し経歴等の詳細を知りたいと考え、次に美術家名鑑類を調査しました。ところが、複数の美術家名鑑にあたっても何故か伊藤の名前は確認できませんでした。(その理由は後述)。そこで、当時の新聞（マイクロフィルム）に何らかの情報があるのではないかと推察し、軍馬像の設置日前後の新聞記事を調査しました。ちなみに、前掲資料の『岩手県公会堂竣工 88 周年記念誌』によると、この軍馬像は昭和 15 年（1940）12 月 21 日に設置されています。

上記の情報を基に『岩手日報』等の当時の新聞記事を通覧すると、「伊藤国男(國男)」は西磐井郡山目村（現・一関市山目）出身の彫刻家で、県公会堂前に設置された軍馬像と同一のものが昭和 15 年 9 月に東京の馬事公苑にも設置されていることがわかりました。また、出身地の情報から『山目史』を確認したところ県公会堂の軍馬像についての記述はありませんが、伊藤の生いたちや彫刻を始めた経緯、馬像に固執した理由等が詳らかに記されていました。

伊藤の作品は解剖学的なリアルさがあると同時に高い芸術性も兼ね備えており、宮内省や皇族、陸軍関係の将官などに買い上げられ、やがて馬像彫塑の第一人者になったようです。しかし、大家となったものの、美術界の特定派閥に属さなかったためか、名前が美術家名鑑に掲載されることは殆どありませんでした。

なお、「支那事変軍馬出征記念像」は金属類回収令により昭和 19 年（1944）3 月 9 日に供出されています。この軍馬像に限らず伊藤の作品の多くは金属回収の対象となってしまい、大変残念なことに現存している数が大変少ないとのことです。

余談になりますが、靖国神社境内にある等身大の軍馬を象った「戦没馬慰霊像」は伊藤の最後の作品です。伊藤の作品は戦前戦後の時期を問わず常に馬と共にありました。



キーワード：岩手県公会堂　伊藤国男　軍馬像

〔調査プロセス〕

1. 岩手県公会堂関連資料を確認。
2. 当時の「県公会堂の軍馬像」に関する新聞記事を確認。
3. 伊藤国男関連資料を確認。

【参考文献】（　）内は当館請求記号

1. 『岩手県公会堂竣工 88 周年記念誌』岩手県公会堂指定管理者希望橋グループ 2016 年（K/379.3/ｲﾜ）
2. 『岩手日報』（マイクロ資料）昭和 15 年 12 月 17 日、12 月 22 日（夕刊）ほか
3. 『山目史』山目史を作る会 1993 年（K/241.1/ﾔ2/1）

※このレファレンスの詳細は「レファレンス協同データベース」で公開しています。是非ご覧ください。
「レファレンス協同データベース」の URL…　http://crd.ndl.go.jp/jp/public/

児童コーナー わかば通信

いつでも どこでも おはなし会

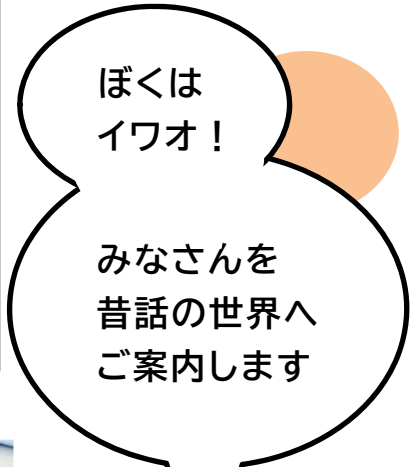
新型コロナウィルス感染症対策のため、中止となっているおはなし会。
再開を楽しみにしてくれている子ども達のために、いつでも どこでも 楽しめる、
3 分程度の短いおはなしの動画を、YouTube で配信しました。

「おにのてがた」

「お地蔵さまのおんがえし」

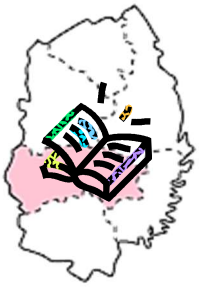
おはなしは、岩手の民話や伝説が中心となっており、現在は、第 1 弾「おにのてがた」、第 2 弾「お地蔵さまのおんがえし」の、2 作品を配信しています。

投票箱



「昔話総選挙」を行い、第 3 弾は子ども達からの投票で、
「天女」が選ばれています。

撮影風景



岩手県内図書館紹介

岩手県内各地の図書館を紹介いたします！

図書館名		**久慈市立図書館**
所在地		〒028-0061 岩手県久慈市中央３丁目 58 駅前観光交流センター(YOMUNOSU)内 TEL:0194-53-4605 FAX:0194-53-4098 ホームページ　http://kuji-library.sakura.ne.jp/
施設の概況と利用状況	開　　館	令和２年７月５日
	延べ床面積	2,518 ㎡（うち図書館部分 1,313 ㎡）
	構　　造	鉄骨造３階建て
	蔵　書　数	約 113,856 冊（2021 年１月末現在）
	登 録 者 数	16,463 人（2021 年１月末現在）
	利 用 者 数	18,856 人（2021 年１月末現在）
図書館の特徴		久慈市立図書館は、久慈市情報交流センター「YOMUNOSU」（よむのす）内の２・３階に移転し、2020 年７月５日オープンいたしました。YOMUNOSU は久慈駅前整備事業の中核施設として建設された施設で、１階には駅前観光交流センター、喫茶コーナー、多目的室などがあり、２・３階が図書館、そのほか屋上、展望室も備えた複合施設です。 新しい図書館は旧館の約 2.5 倍、15 万冊の収蔵能力があります。２階は市木のシラカバ、３階には県木のナンブアカマツを使い、児童書と一般書をそれぞれ分けて配架しています。その他、自動貸出機、Wi-Fi、図書除菌機、電子図書館など、最新の設備を備えた図書館です。
主な事業など		1.子育て応援事業 ・ブックスタート事業・おはなし会・映画会・ぬいぐるみのおとまり会　等 2.青少年の読書活動支援 ・団体貸出・手作り絵本教室・一日司書体験　等 3.図書館利用促進事業 ・企画展示・電子図書館の活用・朗読劇　等 4.地域活動支援 ・移動図書館車・出前図書館・図書館ボランティア講座　等 ※その他、複合施設としての連携事業 ・映画会「ヨムノスシネマ」：毎月１回

図　書　館　掲　示　板

第 61 回　岩手の読書週間
読書推進標語・手づくり絵本入賞者、読書推進運動功績者

岩手の読書週間は、２月１日～14 日までの“春を待つ、雪解け前の静けさの中で、本に親しもう”というスローガンのもと、岩手県独自の読書週間として昭和 35 年に設定されました。この期間中は読書週間を全県的に展開し、読書普及活動を行なっています。

読書週間期間中の主催行事として、令和２年度「岩手県読書をすすめるつどい」が２月６日（土）にアイーナで開催され、読書推進標語と手づくり絵本の入賞者や読書推進運動功績者の表彰が行われました。

手づくり絵本の応募作品は１月 30 日～２月７日まで県立図書館で開催した「第 41 回手づくり絵本展」で展示した後、一部作品を除き県内の図書館等で巡回展示が行われています。

最優秀賞、優秀賞、功績者は次の方々です。(敬称略)

１　読書推進標語入賞者

最優秀賞　『本読んで　心の筋トレ　はじめよう』
伊藤　翔大（奥州市立水沢南中学校２年）

優 秀 賞　『「読んでみて」　その一言で　友だちに』
菅野　華子（奥州市立江刺東中学校２年）

『絵本を手に　むかーしむかしとせがむ孫』
及川　らん子（奥州市　看護師）

2　手づくり絵本入賞者

＜子どもの部＞

最優秀賞　『へんしんたんてい』
佐藤　聖華（奥州市立水沢中学校３年）

優 秀 賞　『友のぼうけんシリーズ 07 つかまったかいぞく』
長谷川　友信（北上市立黒沢尻西小学校６年）
『カイロス、ゆめをみる』
東山　蒼志（二戸市立仁左平小学校４年）
『赤ちゃんとおさんぽ』
沢藤　愛瑠（二戸市立中央小学校２年）

＜一般の部＞

最優秀賞　『ヴィクター歯科クリニック』
大上　フサ子・泉　舞　子（盛岡市）

優 秀 賞　『ぼく・くまになったよ』
千田　成子（一関市）
『お山のこねばち』
工藤　潤子（二戸市）
『じゃんじゃかじゃがいもこつぶ丸』
佐藤　洋子（二戸市）

＜わかばの部＞

優 秀 賞　『きょうりゅうがまちにきた』
夏井　敬一郎・夏井　藍（久慈市）
『あしあとちゃん』
内田　みずき・内田　めばえ（二戸市）

3　読書推進運動功績者

■朗読劇ユニット　やまねこけん（久慈市）　　代表　大西　健一

平成 26 年に有志を募り結成。市立図書館での宮沢賢治童話を中心とした朗読劇公演を中心に活動するほか、保育園等での読み聞かせ会や図書館等の依頼を受け、イベント等に多数出演するなど読書推進に多大な貢献をしている。

■読書ボランティア　ききみみずきん（洋野町）　　代表　木村　美奈子

平成 21 年におおの地域文庫連絡会の読書ボランティア実践講座の受講者を中心に、絵本と本の読み聞かせに興味のある人たちが集まって結成。町内のすこやかサポート（乳幼児向け）や小学校での読み聞かせ、ブックスタートでの 1 歳 6 か月児への読み聞かせのほか、各小学校の図書まつりで影絵や人形劇などを披露している。また、特産である大野木工生産グループのイベントでの読み聞かせや、地域づくり団体のがんばる大野研究会のまちなかフェスタでは、お化け屋敷を開催するなど各種団体とも連携しており、読書推進に多大な貢献をしている。

岩手県立図書館報

としょかん いわて

No.188

発行日　令和３年３月 31 日
編集・発行　岩手県立図書館